vol.252

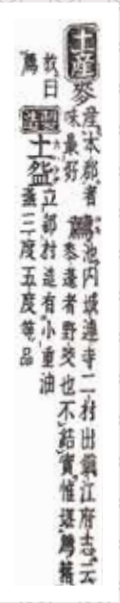
よみがえった「竹内街道わらべ歌」

西田 孝司（松原市文化財保護審議会）

▲岡の竹内街道・中高野街道交差点（岡5丁目）松原南コミュニティセンター前

▲「岡2丁目所在遺跡」説明板（府営松原岡住宅内）

▲丹南遺跡（丹南4丁目）（松原市教育委員会提供）



▶『河内志』の丹北郡の「土産」に紹介された「麦」（本文中は「本郡」と記す）

竹内街道の村々を歌で結ぶ「丹南　松原　麦どころ」

♬ラララ～ 難波から飛鳥までつなぐ国道 日本では1番 古い道…… 竹内街道 横大路 覚えよう！いってみよう！10市町村 大阪市 堺市 松原市 羽曳野市 太子町 葛城市 大和高田市 橿原市 桜井市 明日香村 これからも一緒に手をつないでいこう…… どこまでも続く ぼくらの道 ラララ～（たけのうち！）ラララ～（よこおおじ！）♬

右は、ピアノとギターで弾き語る女性デュオ「あまゆーず」の竹内街道・横大路（大道）のPR曲「ぼくらの道」の一節です。

昨年四月、難波（大阪市）と飛鳥（奈良県明日香村）を結ぶ日本最古の道といわれる竹内街道・横大路（大道）が日本遺産に認定されたことを受けて、本年二月、同街道PR大使でもある「あまゆーず」が作詞作曲したもので、松原市も紹介されています。三月十八日、まつばらテラス（輝）で催された「竹内街道・横大路（大道）街道まつり」で「あまゆーず」が初お披露目しました。

竹内街道は、飛鳥時代の推古天皇二十一年（六一三）に開通したと考えられていますが、江戸時代以降も寺社参詣・経済などの道として頻繁に利用されました。

竹内街道は、古くから親しみを持つ地域の人々にとって生活圏に根ざした道であったことから、すでに、いつごろからか「竹内街道わらべ歌」が大正期ぐらいまで歌い継がれていたようです。長い間、忘れられていましたが、竹内街道開設から一四〇〇年にあたるとされる平成二十五年（二〇一三）、郷土史家などの方々が聞き取りをしたり、古書を調べたりして、歌詞を一部修正して復元されたのでした。現在、羽曳野少年少女合唱団によって、定期的に歌われています（湊川和子氏・補作曲／指導）。

竹内街道わらべ歌

なんば帰ろか（難波＝大阪市）
たけのうち（竹内街道）
道に迷うた
駒ヶ谷（羽曳野市駒ヶ谷）
雨は降るふる
古市で（羽曳野市古市）
傘を借るかる
軽里で（羽曳野市軽里）
馬に乗るのる
野々上で（羽曳野市野々上）
馬もしんどい
新田で（羽曳野市埴生・はびきの）
コロッと落ちたら
五軒家の坂で（羽曳野市伊賀）
金は樫山
もって郡戸（羽曳野市樫山）（羽曳野市郡戸）
煙草一ぷく
のむ野村（羽曳野市野）
丹南 松原 麦どころ（松原市丹南）（松原市岡）
一石播いて
八斗どり（堺市北区蔵前町）
せんど歩いて
まだ蔵の前（堺市北区船室町）
足に
大豆塚でけました（堺市北区大豆塚町）
なんば見えたよ
大小路（堺市堺区）
ようけ歩いた
たけのうち

大和方面から竹内街道を通って堺を経て、難波に帰る行程を羽曳野・松原・堺の村々をおりこんだものです。

堺に入ると、竹内街道から長尾街道へ変わりますが、松原市域では、丹南と松原が登場します。両村とも麦の生産地として名をはせていたとあります。江戸時代中頃の享保二十年（一七三五）に発行された地誌の『河内志』に松原市域が含まれる丹北郡の土産（名産）に麦があると記しています。「味が好しい」と評判であったようです。ですから、近代になっても松原は麦どころと知られていたのでしょう。

松原村は江戸時代には、今の岡・新堂・上田の三村から成る大村であり、この松原とは、竹内街道が通る岡村を指すと思われます。丹南は岡に隣接し、竹内街道のすぐ南にあたります。

ちなみに、松原市域では日本遺産・竹内街道に関連して、わらべ歌に付合するかのように岡・丹南遺跡も構成要素として含まれています。同地周辺には、平安時代後半ごろから河内鋳物師とよばれる工人が住み、寺院の梵鐘や日用品としての鍋・釜などの金属製品をつくっていました。竹内街道北側の府営松原岡住宅緑地帯に「岡2丁目所在遺跡」の説明板が建っています。府道中央環状線の南側、今池に建つ丹南町会総合会館（丹南四丁目）の北側の丹南遺跡でも、工房跡が見つかっています。

竹内街道PR曲「ぼくらの道」発表を機に、「竹内街道わらべ歌」が今後、広まることを期待しています。